

へきけんニュース

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

武蔵大学和井田清司教授及び金井香里教授が北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターを訪問されました！

2020年12月、武蔵大学人文学部和井田清司教授及び金井香里教授が、北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターを訪問されました。武蔵大学では新時代に向けて、教職課程の新たな取り組みを進めようとしています。その参考にするため、本学へき地・小規模校教育研究センターのへき地校体験実習の教育的効果や教職課程における意義をとらえるために視察に来られました。

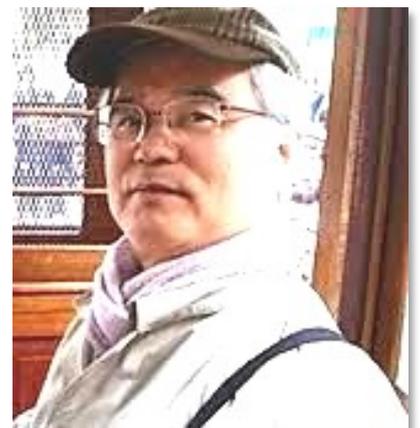
フロンティアとしてのへき地・小規模校教育研究

武蔵大学人文学部 教授 和井田 清司

【少子化時代の教職課程のあり方を学ぶために】

2020年12月、コロナ禍の中、北海道教育大学釧路校のへき地・小規模校教育研究センターを訪問させていただいた。訪問の背景と私なりに学んだことを報告したい。

背景としては、現在、筆者の勤務校である武蔵大学において、少子化時代の教職課程の在り方に関する研究プロジェクトが組織され、新しい特色の探究が進んでいる。その特色の一つとして、地域再生・へき地教育の経験を導入できないかという希望がある。



武蔵大学 和井田 清司 教授

【少子高齢化とリスク社会・地域社会の再編】

まずは変動する時代相を確認しよう。グローバル資本主義の疾風怒濤が地球規模で荒れ狂い、世界全体での格差拡大や地球環境の破壊がとめどなく深刻化している。それに加えて日本では、少子高齢化の進行が未だ経験したことの無い速度で押し寄せてきている。新型コロナの蔓延は、リスク社会の深刻化を鮮明に打ち出している。

こうした時代変動を受け、少子高齢社会、地域社会の再編(消滅町村の激増)、多文化社会、リスク社会という近未来像が浮かびあがってくる。そのような変動社会に対応して、少人数教育、へき地教育、多文化教育、防災教育という重点課題をあげ、教職課程のカリキュラム再編成をはじめ、多角的な取り組みをデザインしつつあるところである。

【武蔵大学のへき地教育実践の取り組み】

ところで、武蔵大学教職課程では、2019年度から、関東+山梨の範囲で一番人口の少ない丹波山村(山梨県)にて、希望者の教職合宿を実施した。丹波山村は過疎地に該当し、人口減と少子化の中で、学校経営の危機をむかえている。大学生との交流を図りたいという村の要望もあり、へき地教育との交流をはじめている。

丹波山村では、山村留学制度の活用で児童生徒を確保し、村負担の教員も雇用しつつ各学年をなんとか維持している。へき地教育の蓄積を参照しながら、今後も丹波山村との交流を通して、教育の本質的な価値や経験を学生たちに学んでほしいと願っている。

【フロンティアとしてのへき地・小規模校教育研究の歴史的蓄積】

へき地・小規模校教育研究センターでは、訪問時、玉井先生からへき地教育のカリキュラムの概要をレクチャーしていただき、川前先生からは集中講義の参観に加え、研究室にてビデオ教材の紹介や補足説明をしていただいた。また、センター所蔵の文献も参照し、へき地教育の蓄積を実感した。

一言で表現すれば、「フロンティアとしてのへき地・小規模校教育」ということになるだろうか。辞書を確認するまでもなく、フロンティアには、おおよそ2つの意味がある。「辺境」という意味と「学問・技術の最先端」という含意である。フロンティア精神といえば、アメリカの西部劇に描かれた開拓者魂を思い浮かべる。北海道の社会や教育の形成過程も、日本における開拓者精神の足跡に満ちている。実際、1953年の紀要には、「開拓地教員の養成」「開拓地における教師の任務」というタイトルの論文が散見される。「開拓地においては、文化的社会機関は学校だけ」という指摘もある。辺境の地で、「地の塩」となって未来の担い手を育成し、地域を支えてきた教師たちの歩みを想像させる。

【「わたり」「ずらし」のデューイの「間接的教育作用」の役割】

そうした苦難の歴史を忘れることはできないが、同時にその中で蓄積してきた実践理論の普遍的な価値に注目することも重要である。複式学級指導における「わたり」「ずらし」という概念もその1つである。一般には、教師が教えるから子どもが学ぶと思いがちだが、教えなくても子どもは学びに没頭することがある。デューイのいう「間接的教育作用」はその代表的なケースである。また、へき地は、子どもの育ちが地域の持続に直結する。そのため、家庭教育・地域(社会)教育・学校教育が密接な連携のもとで構成される。へき地・小規模校教育の理論と実践の蓄積は、個別最適化教育および社会に開かれた学校のプロトタイプを提供している。その意味で、学問・技術の最先端に位置している。端的に言えば、自律的学習者であり協働的实践者である有為な人間形成をめざすこれからの教育に向け、知的貢献を用意しているように思われるのである。

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターにお伺いして

武蔵大学教職課程 教授 金井 香里

【へき地小規模校教育の役割と文化の継承・人的ネットワークの構築】

新型コロナウイルス感染拡大の中、東京の大学からの私たちの訪問を温かくお受け入れ下さり、心より感謝しています。北海道教育大学でのへき地校体験実習の立ち上げにご尽力された現副学長の玉井康之先生、釧路校で現在精力的に、学生の皆さんにへき地教育のご指導にあたられている川前あゆみ先生、また私たちの訪問中ご同行下さった小林淳一先生からお話を伺うなかで、あらためて北海道教育大学において取り組まれているへき地小規模校教育の意義について学ぶとともに、地域における文化の継承と人的ネットワークの構築という学校が従来果たしてきた重要な役割について再認識しました。



武蔵大学 金井 香里 教授

【学生の学校観の揺さぶりと「学校の常識を変えるパラダイム転換】

へき地校での体験実習を経験した学生の皆さんのお話からは、ご自身の学校観が揺り動かされる経験（まさに、パラダイム転換の経験！）をされ、学校、子ども、授業はもとより日常生活や時間についての考え方など、広く物事を見る目が変わられたご様子を伺うことができました。日頃、教職課程を履修する学生たちと関わっていると、学生たちにとって自身の12年間の学校生活はかなり強固に「学校の常識」として位置づいていて、そこからどのように離れて現実の子どもたちの多様な生活状況や家庭環境、さまざまな学びのあり方、わかり方について理解を促そうかと苦慮することが少なくありません。その意味でも、へき地小規模校で子どもたちと関わったり体験実習をしたりするという経験は大変貴重で、学生の皆さんをととても羨ましく思いました。



へき地・小規模校教育研究センター



へき研センター掲示板

【武蔵大学でもへき地小規模校教育の学習機会を設けたい！】

武蔵大学教職課程では、今後、何らかのかたちでへき地小規模校教育についての学修の機会を設けたいと考えています。今後とも、先生方、また学生の皆さんからも学ばせて頂きたいと、どうぞよろしくお願い致します。末筆ながら、先生方、また学生の皆さんの今後ますますのご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

へき研センター 資料室



令和2年度日本教育大学協会研究集会プログラム へき地・小規模校教育分科会報告

日本教育大学協会の全国研究集会は愛媛大学で開催される予定でしたが、今年はWEB上で報告資料を掲載するWEB開催となり、11月末まで報告資料が公開されていました。今年の「へき地・小規模校教育分科会」（第4分科会）のWEB報告は、別紙の通り全国から8本の応募がありました。北海道教育大学からは、2本報告しています。

全国の報告を見ると、へき地教育実習等を実施している大学も少しずつ増えており、またへき地教育に取り組むアプローチも広がってきていることが分かります。

【第4分科会・へき地・小規模校教育】

番号	発表題目	発表者	所属
4001	へき地校体験実習が学生の教員志望動機や成績にもたらす影響	○ 渡辺 匠 櫻井良祐	北海道教育大学
4002	へき地・小規模校教育のパラダイム転換と現代における可能性	○ 川前あゆみ 玉井康之	北海道教育大学
4003	宮崎県における学校の小規模化と授業づくりの実践課題	○ 竹内 元 藤本将人 遠藤宏美	宮崎大学大学院教育学研究科 宮崎大学教育学部 宮崎大学教育学部
4004	へき地・小規模校をフィールドにした学生の地域貢献活動の成果と課題	○ 遠藤宏美 吉村功太郎	宮崎大学教育学部 宮崎大学大学院教育学研究科
4005	05 大学と教育委員会の連携・協働で「へき地・小規模校 教育」を充実させよう ―奈良教育大学と奈良県教育委員会による新科目設置と教員研修―	○ 河本大地 中澤静男 板橋孝幸	奈良教育大学
4006	学生の小規模校訪問と学校と大学の連携協力事業実施	○ 鴛原 進 城戸 茂 三浦和尚 尾川満宏	愛媛大学教育学部 愛媛大学大学院教育学研究科 愛媛大学教育学部 愛媛大学教育学部
4007	千葉大学教育学部におけるへき地・小規模校教育実習 ―北海道浜中町での事例について―	○ 本田勝久 大島マリア ○ 中西裕介 鶴田結衣	千葉大学教育学部 厚岸町立真龍中学校 千葉大学教育学研究科 千葉大学教育学部
4008	4008 小規模校における複式指導の遠隔研修 ―附属小学校複式研究部の実践知公開の試み―	○ 菅野 亨 清水 将	岩手大学大学院教育学研究科 岩手大学教育学部